

				科目コード	107
科目名	助産診断・技術学Ⅱ (Midwifery Clinical Skills Ⅱ)			選択区分	必修
単位数	2単位	時間数	60時間	学期	前期
担当教員	今村 朋子、井上 明子、伊藤 美香、山本 美由紀、 小嶋 理恵子、中越 利佳			区分	助産学実践領域
授業概要	<p>本科目では分娩期に焦点を当てて学習する。助産診断・技術学Ⅰから継続した産婦・家族の事例展開を通して、助産師として、分娩期の診察や分娩介助を自立して実施するために必要な基礎的能力を養う。特に、女性の産む力と児の生まれる力を引き出すための援助について、様々な助産技術を用いた関わりを中心とした事例の展開を行う。</p>				
授業目標	<p>1 分娩期の診断と援助を行うための知識・技術を修得し、助産過程を展開することができる。 2 正常分娩を自立して取り扱うための分娩介助技術の基本を修得することができる。 3 女性にとって「出産」とは、どのような意味を持つのか、自分の考えを持つことができる。</p>				

授業内容

回	項目	内容	担当者
1. 分娩第1期の助産診断・技術			
1	分娩期の対象理解と助産師の役割	「満足いくお産」「いいお産」とは 助産ケアが目指すもの	今村朋子
2	分娩期の助産診断と記録	分娩の4要素と助産診断類型、分娩期の記録	
3	お産のしくみ理解のワーク	お産のしくみを立体的にイメージ 内診による観察項目とビショップスコア	
4～5	分娩期の フィジカルイグザミネーション(2)	【技術演習】内診の技術 内診技術の基本 内診・外診所見を統合したアセスメント	今村・井上 伊藤・山本
6	様々な診察手段を用いた分娩予測 (135分)	フリードマン曲線と分娩予測 分娩の促進・遅延因子 様々な診察手段の選択	今村朋子
7	娩出力のアセスメントと産痛緩和	【講義・技術演習】陣痛の定義と診察方法、 陣痛と産痛、産痛のメカニズムと産痛緩和 様々な産痛緩和法の実践	井上明子
8	事例展開⑥ 分娩第1期：陣痛発来 (45分)	【実践演習】分娩開始の判断と電話対応	今村朋子 井上明子
9	事例展開⑦ 分娩第1期：入院時	アナムネの聴取、分娩期の情報整理と助産診断 【実践演習】入院時の助産診断と経過予測	今村朋子 井上明子 他
10～11	出産を正常に保つ援助とは？	内診課題の解説 産婦の産む力を引き出す援助 出産とホルモン・環境・姿勢	今村朋子
12～13	事例展開⑧ 分娩第1期：潜伏期	パルトグラムの記載、初期診断と児娩出予測 スタンダードプランの活用 【実践演習】潜伏期の観察と援助	今村朋子 井上明子 他
14～15	事例展開⑨ 分娩第1期：活動期	スタンダードプランの活用と個別プランの展 開、全開が近づいた徴候、付属物の診断 【実践演習】活動期の観察と援助	今村朋子 井上明子 他
16	お産の流れを読みとるワーク	経産婦の分娩経過、遷延分娩、回旋異常	今村朋子

回	項目	内容	担当者
2. 分娩第2～4期の助産診断・技術			
17	分娩介助の基本理念	映像でイメージする「出産と分娩介助」 分娩介助ノートの活用	今村朋子
18		助産師が行う分娩介助の意義とケアの基本理念 WHOの59か条と出産のケア 会陰の解剖と児娩出のしくみ	
19		分娩第1期から3期への流れと助産師の役割 分娩開始後のリスク判定	
20	事例展開⑩-1 分娩第2期：仰臥位分娩	分娩介助の流れ（デモストビデオ視聴） 分娩準備～児娩出・胎盤娩出・産道の精査	今村朋子 井上・伊藤
21～22	分娩介助技術	介助技術①【講義】実技デモストと解説 分娩介助ノートに沿った仰臥位分娩介助技術	今村朋子 伊藤美香
23		介助技術②【演習】仰臥位分娩介助技術演習 児娩出～胎盤娩出の介助	全教員
24		介助技術③【講義・演習】 分娩第2期の娩出力の診断と調整 努責の誘導と呼吸法	井上明子
25	出生直後新生児のルーチンケア	【講義・技術演習】 出生前からの状態予測と児を迎える準備 蘇生のアルゴリズムに基づくルーチンケア	山本美由紀
26～27	出生直後～早期新生児の健康診査と 援助	【講義・技術演習】 出生直後新生児の全身観察、早期皮膚接触時の 観察とケア、早期新生児期の観察	山本美由紀
28	事例展開⑩-2 フリースタイル分娩	フリースタイル分娩お産劇 自然出産の意義とお産のケアエビデンス	今村朋子 井上明子 伊藤美香 他
29	事例展開⑪ 分娩第3～4期	【実践演習】分娩第3～4期の助産診断と援助	今村朋子 井上明子
30	分娩終了時診断と公的記録	付属物の精査、分娩終了時診断と産褥・新生児 期の予測、助産師の公的記録	今村朋子
成績評価 方法	筆記試験（50%）、実技試験（分娩期診察10%、分娩介助20%）、助産過程の展開（10%）、授業に取り 組む積極性（10%）とし、各評価ともに6割を合格の条件とする。		
教科書	共通シラバスのとおり 教員作成の「分娩介助技術ノート」をテキストとして配布する		
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進 純郎、堀内成子「(ブラッシュアップ助産学) 正常分娩の助産術」(医学書院)</li> <li>・進 純郎「(助産師必携) 会陰保護技術」(メディカ出版)</li> <li>・田村 正徳「日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」(メジカルビュー社)</li> </ul>		
備考	<p>※毎回、次の授業に向けた課題があり、実施してきた課題に沿って授業を行います。</p> <p>※16回の後、分娩期の診察についての実技試験を実施します。(今村・井上・伊藤・山本)</p> <p>※27回の後、分娩介助技術についての実技試験を実施します。(今村・小嶋・中越・井上・伊藤・山本)</p>		